

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりにおいて、単元および単位時間について、児童の主体性を促す指導方法について模索した。このことを基に算数科に絞って、よりよい指導方法を開発していく。 年間5回の生活およびいじめに関するアンケートを行い、児童の状況の把握をおこなった。本取組を継続するとともに日常的な指導も充実を図っていく。 一定の制限の中、できる方法を検討し、地域の方との交流を継続していく。また、新たな人的資源とのつながりを求めていく。
------------------	---

2 学校教育目標	豊かな心をもち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成
----------	---------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童の主体性を伸ばす学習指導の在り方を追究し、学力向上を図る。 ② 充実した学校生活を送ることができるようにする。 ③ 地域の一と・もの・こととつながり、地域と共に歩む学校をつくる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	●県調査と全国調査の結果分析を詳細に行い、研修に生かす。					
	○(学校独自重点取組・任意)	○学習に対する意識調査において、関心及び主体性に関する質問において、肯定的に回答した児童の割合を80パーセント以上。 ○児童の目標達成率を達成させる。低学年100冊100%・中学年80冊100%・高学年60冊80%	●授業の在り方について工夫を行い、児童が自ら学ぶ力を高める。 ●児童が学ぶ目的や学びへの意識向上のための工夫を行い、学ぶ力を育む。 ●図書室の活用や家庭を推進する。					
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳科の「生命尊重」に関する授業を年間1回以上行う。 ○身の回りの人に「ありがとう」の気持ちを伝える回数を増やす。	●教育の日等に道徳授業の公開を行う。 ●体験活動を通して、友だちとの関わりや地域の人とのふれあいの機会をふやす。					
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持つ子ども85パーセント以上を目指す。	●いじめ防止に取り組み、いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議等で気になる児童の情報交換を行う。					
●健康・体づくり	●児童が夢や目標をもち、その実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○キャリアパスポートの記述を進め、将来の夢や希望に関するアンケートに肯定的な回答をした児童(小学5・6年)の割合が85%以上。	●各種活動で、児童に活動の見直し、学びの振り返り、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。					
	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●望ましい生活習慣の形成に向けて、生活習慣アンケートを全校に実施する。達成率を各学年全項目の平均65%を目指す。また、朝食を毎日食べる児童の割合、90%を目指す。 ●食の自己管理能力の育成に向けて、手作り弁当に取り組む。	●食育月間の6月11月の2回に1週間「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣アンケートを実施する。毎回復り返りを各自行う。達成率及び児童、保護者の取り組んだ感想は、保健だよりにも掲載し保護者への周知を図る。●各学期に1回「手作り弁当の日」を設定し年3回実施する。毎回ワークシートに感想を書く。写真や感想を廊下に掲示したり、保健だよりに掲載したりすることで、食への興味関心を高める。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○たくましい体づくりの推進	○持久走大会へ向けてのマラソン週間や縄跳び運動を通して、持久力の向上を目指す。	●持久走大会の4週間前から、業前で、持久走カードを使用し、運動場50周を目標に取り組み、達成率90%を目指す。 ●縄跳び2分跳び、達成率全校で50%を目指す。					
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	●毎週1回の定時退勤日を定め、完全実施をめざす。 ●会議時間の終了を退勤時刻の15分以上前と設定し、90%以上の割合で達成する。					

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間1回以上活用する。 ○児童が年間1回以上、地域の行事に参加する。	●公民館、地域団体などの連携を図り、活動を展開する。 ●「人材リスト」を活用し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。					
○特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実	○校内支援会議などを充実させ、支援が必要な児童に対して、連携し、個に応じた対応ができると答えられる教員を80%以上にする。	●必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報共有する。困り感を持つ子どもや保護者に寄り添い、校内支援会議を開き、支援していく。					

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--